



大宰府政庁跡と四王寺山



国内最古の歌を収めた万葉集にも大野城を歌ったものがあるよ。

### 四王寺山の歴史

大野城が築かれた四王寺山は、太宰府市・大野城市・宇美町にまたがり、大城山・大原山・岩屋山・水瓶山で構成される山の総称で、標高410mの山です。古くは「大野山」、「大城山」とも呼ばれ、宝亀5(774)年に大野城内に四天王像を安置した四王院が建立されたことから四王寺山の呼び名が加わったと考えられています。

防衛施設として造られた大野城ですが、外国からの侵攻はなく、実戦のないままにその機能はやがて四王院建立の頃から宗教色が濃くなっていきます。平安時代には経典を納めた経塚の造営がはじまり、山裾には原山などの寺院が成立します。江戸時代には人々の救済を目的に、四王寺山の各地に観音菩薩を設置した三十三石仏巡りの札所がつけられ、信仰の山として知られるようになりました。

信仰は現在でも続いており三十三石仏巡りのほか、四王院の名残とされる毘沙門堂では毎年1月3日に「毘沙門参り」が行われています。また、気軽に登山ができる山であり、多くの人々から親しまれています。

四王寺山は古代から近世に至る多様な遺構が残っており、特に古代の遺跡は日本の歴史を語るうえで重要な遺跡であることから、国の特別史跡大野城跡に指定されています。

### 現在も続く祈りの

#### 四王寺山三十三石仏



四番札所

江戸時代後期(寛政年間)につくられた石仏です。当時、博多では大火災や天然痘の流行、天変地異などが起こりました。こうした災疫から人々を救うために、博多の人々が発起し、観音菩薩の石像作成を始めました。この動きに大宰府・宇美町の人々も協力し、西国三十三カ所にならって四王寺山をめぐる札所ができました。

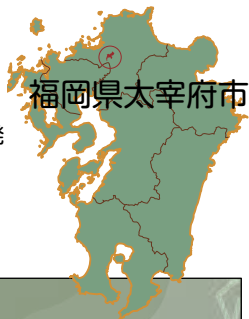
現在も石仏めぐりは行われており、四王寺山の観光スポットとなっています。また、太宰府市民遺産に認定され、定期的な石仏の見守り活動が行われています。

※詳しくは「四王寺山三十三石仏巡り」マップをご覧ください。

### アクセス

#### 太宰府口城門跡まで(多目的広場)

- ・太宰府市コミュニティバス「まほろば号」西鉄都府楼前駅発「大宰府政庁跡」下車。坂本経由で登山、約1時間。
- ・西鉄太宰府駅下車、四王寺林道経由で登山、約50分



### 特別史跡 大野城跡

指定日 昭和7年(1932年)7月23日(史跡指定)  
昭和28年(1953年)3月31日(特別史跡指定)

所在地 福岡県太宰府市・大野城市・宇美町

指定面積 7,510,606.94㎡(2022年3月現在)

管理者 太宰府市

備考 大野城跡は、「日本遺産」の構成文化財の一つです



日本遺産  
古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～  
<http://www.dazaifu-japan-heritage.jp>



発行：太宰府市教育委員会(文化財課)  
〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺1-1-1  
tel 092-921-2121(代表) bunkazai@city.dazaifu.lg.jp

発行日：令和4年(2022年)3月31日

### 太宰府市の史跡シリーズ(大野城跡)

### 特別史跡

# 大野城跡



百間石垣(写真提供:宇美町教育委員会)



こ だい さん じょう おお の じょう  
**古代山城 大野城**

てん ぢ てん のう ちようせん しき やまじろ  
 天智天皇4(665)年に築かれた朝鮮式山城の一つです。天智天皇2(663)年に起こった白村江の戦いでの大敗をきっかけに、唐・新羅の侵攻に備えて、百済から亡命した技術者の指揮のもと築城されました。

ど りい せきるい じようもん  
 尾根と谷を土塁と石塁で繋ぎ、出入り口には城門が作られました。約8kmに及ぶ城壁の南北部分は二重につくられ、城の中には必要な物資を保管する倉庫が建てられました。

日本最古の歴史書である『日本書紀』にも記述がみられる国内最大級の古代山城です。



太宰府口城門\*

太宰府口城門は大野城の中で一番大きな城門なんだ!



だ ざい ふ ぐちじようもんしゆつど ひん  
**太宰府口城門出土品**



のきまるがわら 軒丸瓦\*

すきさき (鋤先) やりがんな (鉞) (鏡) じちんぐ 地鎮具\*



おにがわら 鬼瓦\*

だ ざい ふ せいちようあと おにがわら  
 太宰府口城門の調査では、大宰府政庁跡などで見られる鬼瓦が出土しているほか、軒丸瓦が出土しており、奈良時代の城門は瓦葺の屋根であったことがわかっています。また、地鎮具と考えられる鏡や鋤先の小型模造品が出土しています。

**城内の各施設**

じようもん  
**城門**



太宰府口城門の唐居敷

じようもん  
 城門は9カ所確認されています。門扉の部材を支えるために加工された石材が残っています。

すいもん  
**水門**



屯水\*

水が溜まりやすい谷部に位置する土塁や石塁には、流水による崩落を防ぐために石を暗渠状に組んだ水門を設けて水を排水しました。

ど りい  
**土塁**



尾花礎石群付近の土塁

土を積み上げ突き固めた版築工法による土の城壁です。高さ5~6mの土塁が、尾根と谷を跨ぎながら四王寺山の頂部をめぐるっています。

せきるい いし がき  
**石塁(石垣)**



復元整備された大石垣

おもに谷部などの要衝とする場所に石塁が築られました。百間石垣やおおいしがき だ ざい ふ ぐちじようもん や大石垣、太宰府口城門に取り付く水ノ手口石垣が有名です。



そ せき たて もの  
**礎石建物**



増長天礎石群\*



増長天礎石群建物復元図\*

城内には8カ所の建物群があり、約70棟の礎石建物が確認されています。建物は総柱のものが多く、稲穀や武器を納めた倉庫と考えられています。尾花礎石群の近くには、焼米ヶ原という炭化した米が出土する場所があり、礎石建物との関連がうかがえます。

**古代以降のおもな遺跡を紹介**

はらいせき  
**原遺跡**



原山本堂跡

中世の寺院跡で四王寺山の南東側に広がります。四王院を継承する寺院と伝えられています。平安時代から南北朝時代に「原山」の名称で知られ、一時期には8つの僧坊があったことから「原八坊」とも呼ばれています。伝承では、菅原道真が延喜3(903)年に亡くなった際、原八坊の僧がこの葬儀に関わったことが伝えられています。

いわずじやうあと  
**岩屋城跡**



岩屋城本丸跡

おおもとし たかはしじやうらん  
 大友氏に仕えた高橋紹運の城です。天正14(1586)年、島津氏との壮絶な戦いの末、主君に忠義を尽くしほぼすべての城兵が玉砕しました。岩屋城は四王寺山の南中腹に位置し、本丸、二の丸、三の丸と伝えられる城郭が残っています。現在、本丸には合戦を伝える石碑が立ち、二の丸跡には紹運と家臣の墓があります。

\*…写真・図の提供は九州歴史資料館。それ以外は太宰府市教育委員会所蔵。